



尺田 耕平 議員

### Q 熊野町の借金は

#### A 町長

本町の借金は過去最高を更新し続けている状況だが、より有利な地方債を選択するなど、引き続き健全な財政運営に努める。

- 【Q1】 本町の令和3年度決算における借金は約84億円、住民一人当たり約35.6万円である。また、借金は10年前と比べて約20億円増え、5年後には現在より約8億円増加を見込んでいたが、今後の具体的な増加要因は。
- 【A1】 令和5年度以降において、筆の里工房周辺整備や災害予防、小中学校における老朽施設の更新事業が増加要因となる。
- 【Q2】 町の収入である自主財源の推計は今後どのように見込んでいるか。
- 【A2】 5年後は約1%減少する見込みである。
- 【Q3】 総合計画に掲げた取り組みを着実に進めることにより、定住人口の増、税収の増につながるものとのことだが、その考えは甘くないか。収入に関してはおもつと危機感を持って攻めの姿勢がほしい。
- 【A3】 筆の里工房周辺整備（公苑）についても、来客数だけで満足してはダメだ。収入を得ることまで考えてもらわないと、後世に負の遺産を残すことになる。借金が增えることで行政サービスが硬直化せず、将来も柔軟な行政サービスを住民に提供できることを願うが、博打を打つようなこととはできないが、今後も健全な財政運営のために鋭意努力したい。



## 永年の功績により受賞！ ～総務大臣表彰～

「令和4年度総務大臣表彰及び感謝状贈呈式」が10月24日にホテルルポール麴町で開催されました。

本議会からは、町議会議員として中原裕侑議員が、議員在職35年以上として、総務大臣から表彰を受けられました。



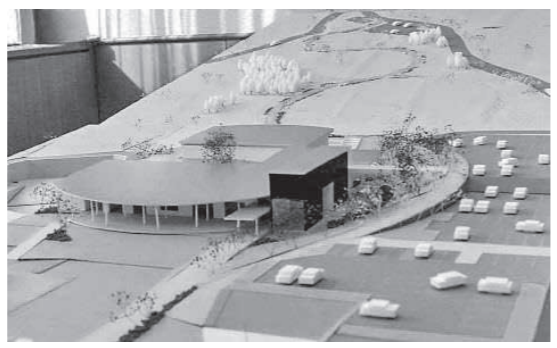
## 筆の里工房周辺整備事業計画を調査

### 総務厚生委員会

12月16日に総務厚生委員会を開催し、「筆の里工房周辺整備事業計画」の報告を受けた後、質疑を行いました。

#### ○主な質疑

- Q 一部工事が着手しているが、全体の計画はどのようなになっているか。
- A 体験交流施設は、令和4年度に基本設計、令和5年度に実施設計を行い、令和6年度から建築工事に着手し、令和7年度末の完成を目指している。また、令和8年度から調整池等の整備に着手し、令和10年度に公園部分の完成を予定している。



▲体験交流施設模型写真

- Q 基本設計、実施設計にあたって広く意見を聞くべきと思うが。
- A 令和4年12月に将来の熊野町を担う熊野高校生と体験交流施設の基本設計にかかるワークショップを開催した。また、令和5年1月に町民を対象としたワークショップを計画しており、今後も広く意見を集めたい。

- Q 体験交流ゾーンと筆の里工房間の歩行者安全確保はどのように考えているか。
- A 利用の安全が保たれるよう横断歩道周辺について、安全対策を講じる。

- Q (仮称)筆の里創造の丘公苑としているが、漢字を「苑」にした背景は。
- A 単なる公園ではなく、創作活動を通じて地域のコミュニティや人づくりができる特別な場所として意味を込めている。例として、「丹波の森公苑」などがある。

### Q 筆の里工房周辺整備事業の練り直しを

#### A 町長

長期的展望に立った戦略を段階的に実行していく。



片川 学 議員

- 【Q1】 総事業費13億6千万円の財源は。また、償還方法・期間は。
- 【A1】 国費が約6億4千万円、起債が約6億5千万円だが、最終的に町負担が約6億円になる見込みである。
- 【Q2】 事業開始から観客動員数のための施策、イベントの中で収益を生むという発想はあるか。
- 【A2】 この事業で収益を生むのは非常に難しい。
- 【Q3】 町民第一主義というならもつと町民からの意見を吸い上げるべき。住民代表の意見も吸い上げていない。議会に
- 【A3】 対しての説明が常にな
- 【Q4】 子育て世代、年配の方など一般の方々から幅広く意見の吸い上げをすべきでは。
- 【A4】 幅広い世代から意見を聴く機会を設けたい。
- 【Q5】 交通手段がない住民のことは考えているか。また、道路整備についても考えているか。
- 【A5】 交通手段をつくるというの非常に難しい課題と考えている。車に頼って来ることを踏まえ、全体計画の中のバランスを取って進めていく。